

令和3年度 事業報告



令和3年 9月28日(火)
『主体的・対話的で深い学び』の
視点からの授業改善(算数科)



令和3年11月8日(月)
「外国語教育の充実」



令和3年12月23日(木)
「実技研修『絵画指導』の充実」



令和3年7月16日(金)
「環境教育の充実」
～地域とタンチョウとのつながり～

《研究紀要等の発行》

	発 行 物	部 数	配 布 先
1	・研究紀要第192号 「『主体的・対話的で深い学び』 につながる授業づくり」 (学習指導研究専門委員会)	200	小・中学校 義務教育学校 教育関係機関等
2	・研究紀要第193号 「学級経営に生かす学級目標 ハンドブック」 (生徒指導研究専門委員会)	200	小・中学校 義務教育学校 教育関係機関等
3	・特別支援教育通信 No. 24 (特別支援教育研究専門委員会)	メール配信	小・中学校 義務教育学校 教育関係機関等
4	・令和4年度版 郷土読本「くしろ」	1400	小学校 義務教育学校 (新3年児童)
5	・所報「釧路教育」 No. 308 No. 309 No. 310	300 300 300	小・中学校 義務教育学校 教育関係機関等

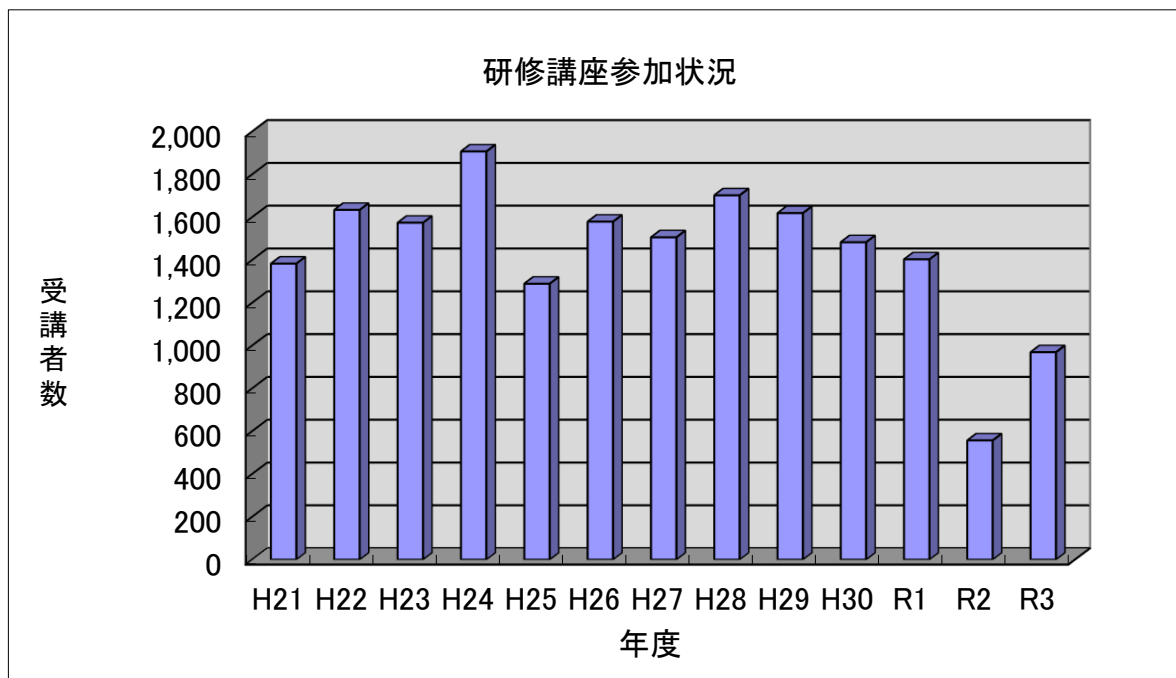
《研修講座参加状況》

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインと集合を併用しながら24講座を開講した。(令和2年度に開講した研修講座数は14講座)

※()は令和2年度受講者数。

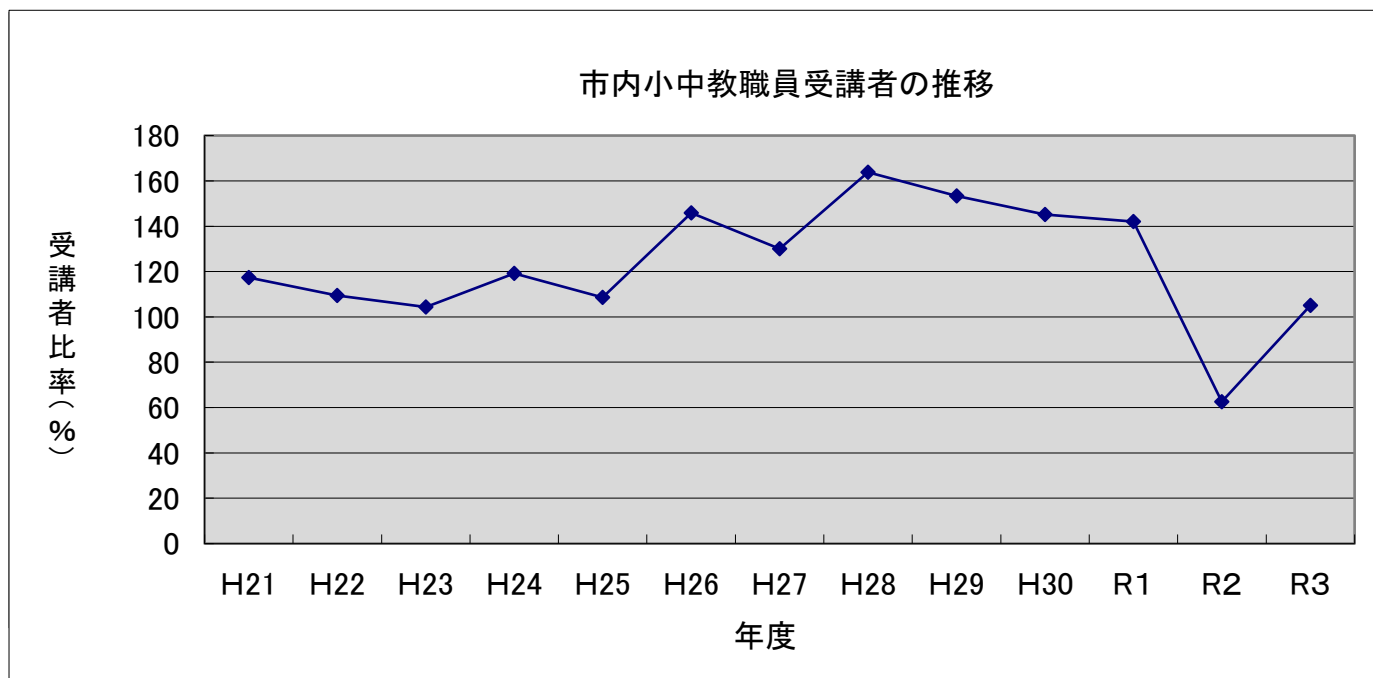
	市内小中教職員	管内小中教職員	幼・高・一般等	合計
受講者数	903(528)	38(15)	28(14)	969(557)

年度	受講者
H21	1,383
H22	1,634
H23	1,574
H24	1,907
H25	1,289
H26	1,579
H27	1,506
H28	1,702
H29	1,619
H30	1,483
R1	1,403
R2	557
R3	969



《市内小中教職員参加状況》 釧路市立小中学校教職員に対する受講者数の比率(%)

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
受講者数	1,006	943	894	1,068	935	1,266	1,123	1,424	1,385	1,305	1,265	528	860
比率(%)	117.4	109.5	104.3	119.2	108.6	145.9	130.1	163.8	153.4	145.2	142.1	62.6	105.0



釧路教育研究センター研修講座 参加人数（令和3年度実績）

番号	講座名	期日	会場	対象	参加人数
1	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善（国語科）	10月14日（木）	釧路教育研究センター	小・中・義・高	33
2	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善（算数科）	9月28日（火）	各学校（オンライン配信）	小・中・義・高	33
3	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善（数学科）	10月11日（月）	釧路教育研究センター	小・中・義・高	26
4	外国語教育の充実	11月8日（月）	釧路市立春採中学校	小・中・義・高	78
5	道徳科教育の充実	1月28日（金）	各学校（オンライン配信）	幼・保・認・小・中・義・高	20
6	総合的な学習の時間の充実	12月20日（月）	釧路教育研究センター	小・中・義・幼・保・認	18
7	体育科教育の充実	7月28日（水）	釧路市立清明小学校	幼・保・認・小・中・義・高	25
8	学びに向かう力を育む学習集団づくり～学級経営と教科経営の連動～	10月26日（火）	釧路教育研究センター	小・中・義	46
9	いじめ・不登校・児童虐待への対応～ケース対応・教育相談の充実～	8月4日（水）	釧路市生涯学習センター まなぼつと幣舞	幼・保・認・小・中・義・高	48
10	幼保小連携と協働	10月8日（金）	釧路教育研究センター	幼・保・認・小・中・義	31
11	校内研修の充実	6月8日（火）	各学校（オンライン配信）	小・中・義 （研修担当教員対象）	43
12	釧路市の教育～採用2年目研修会～	7月14日（水）	釧路市こども遊学館	小・中・義 （採用2年目教員）	29
13	特別支援教育の充実Ⅰ ～コーディネーター研修会～	①5月11日（火） ②5月12日（水） ③5月17日（月）	各学校（オンライン配信）	小・中・義	86
14	特別支援教育の充実Ⅱ	12月17日（金）	釧路教育研究センター	幼・保・認・小・中・義・高	30
15	防災教育の充実	1月19日（水）	釧路教育研究センター	幼・保・認・小・中・義・高	20
16	多様な性の理解研修	12月13日（月）	各学校（オンライン配信）	幼・保・認・小・中・義・高	56
17	実技研修「絵画指導」の充実	12月23日（木）	釧路市立青葉小学校	幼・保・認・小・中・義・高	18
18	環境教育の充実 ～地域とタンチョウのつながり～	7月16日（金）	釧路市動物園	小・中・義・高	9
19	公開研に行こう～城山小学校～	11月12日（金）	釧路市立城山小学校	幼・保・認・小・中・義・高	39
20	公開研に行こう～大楽毛小学校～	12月3日（金）	釧路市立大楽毛小学校	幼・保・認・小・中・義・高	74
21	公開研に行こう～大楽毛中学校～	10月22日（金）	釧路市立大楽毛中学校	幼・保・認・小・中・義・高	54
22	公開研に行こう～昭和小学校～	11月26日（金）	釧路市立昭和小学校	幼・保・認・小・中・義・高	77
23	公開研に行こう～青葉小学校～	10月27日（水）	釧路市立青葉小学校	幼・保・認・小・中・義・高	57
24	ミニ研修講座 一人一台端末活用の充実	9月15日（水）	釧路教育研究センター	小・中・義	19

【釧路教育研究センター 教育講演会】

講師・演題等	期日	会場	対象	参加人数
講師：高橋善之氏（秋田県大館市教育委員会教育長） 演題：『教育のイーハトーヴを求めて ～ふるさとキャリア教育が奏でる“学びの交響学”～』	新型コロナウイルス感染症 拡大防止のため中止		幼・保・認・小・中・ 義・高・一般	

《教育相談状況》

○月別・相談内容別 集計表

【面談：5 電話：24 メール：4 延件数：33件 ※継続件数：6】

内容 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1 学習・進路		1											1
2 特別支援													0
3 家庭教育							2 (1)						2
4 非行・問題行動													0
5 不登校	1		3	1	3	1	4	3	1	3	3	1	24
6 いじめ													0
7 学校生活		2 (2)		3 (1)									5
8 学校不信													0
9 部活動・同好会		1											1
10 その他													0
合計	1	4	3	4	3	1	6	3	1	3	3	1	33

※（ ）はメール相談内数

○校種別・内容別 集計表

内容 \ 校種	幼児	小学校	中学校	高校	大学	一般	不明	合計
学習・進路			1					1 3.0%
特別支援								0 0.0%
家庭教育		2 (1)						2 6.1%
非行・問題行動								0 0.0%
不登校		7	17					24 72.7%
いじめ								0 0.0%
学校生活		5 (3)						5 15.2%
学校不信								0 0.0%
部活動・同好会			1					1 3.0%
その他								0 0.0%
合計	0 0.0%	14 42.4%	19 57.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	33

継続相談を含むため、相談件数が問題発生件数を示しているわけではありません。

※（ ）はメール相談内数

≪ 釧路教育研究センター 施設利用状況 ≫

◇釧路市

利用目的・機関	回数	人数	備考
① 研修講座	13	461	
② 所員研修	97	485	
③ 専門委員研修	24	720	
④ 市教育委員会	91	2137	
⑤ 研究団体等	67	1798	
⑥ センター主催会議	2	28	
計	294	5629	

◇釧路教育局

利用目的	回数	人数	備考
① 研修講座・会議	1	11	

◇釧路管内・釧路教育研究所

利用目的	回数	人数	備考
① 研修講座	0	0	
② 釧研所員会議	5	110	
③ 事務局会議等	8	79	
④ 研究団体等	45	573	
計	58	762	

●施設利用 総計

	回数	人数	備考
計	353	6402	

≪ 視聴覚機材及び教材の利用状況 ≫

◇機材

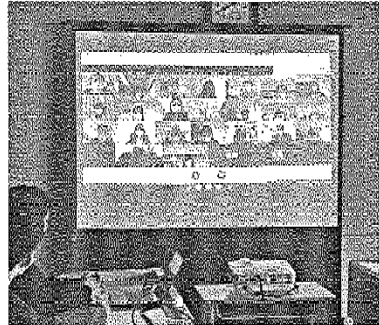
	28年度	29年度	30年度	R元年度	2年度	3年度
① 学校教育	81	94	85	76	113	123
② 社会教育	13	32	17	6	2	2
計	94	126	102	82	115	125

◇教材

	28年度	29年度	30年度	R元年度	2年度	3年度
① 学校教育	63	27	26	6	3	2
② 社会教育	79	29	57	18	0	2
計	142	56	83	24	3	4
※ () はDVD及び16mmフィルム	(12)	(21)	(23)	(19)	(1)	(2)

【北海道通信 令和3年5月24日】

特別支援教育コーディネーター研修会 支援体制の構築・啓発を 釧路市教委 役割など説明



オンラインで
67人が参加

【釧路発】釧路市教委は「会」を開いた。市内小・中
11・12・17日の3日間、釧路学校や特別支援学校の教員
路教育研究センターで研修。87人が自校からリモートで
講座「特別支援教育の充実」に参加。各校の現状や課題解
決に向けた方策を交流した。I・コーディネーター研修。決

特別支援教育コーディネーター研修会を開催した。市内小・中
11・12・17日の3日間、釧路学校や特別支援学校の教員
路教育研究センターで研修。87人が自校からリモートで
講座「特別支援教育の充実」に参加。各校の現状や課題解
決に向けた方策を交流した。I・コーディネーター研修。決

明。特別支援教育コーディネーターの役割について、主に教員や保護者の相談窓口になるとともに、関係機関との連絡調整やネットワークづくりなど、校内支援体制の構築と啓発に努める必要性などを確認した。

巡回相談に関しては、コロナ禍においても相談件数が変わらなことから、目的や必要性を明確にするなどの重要性を強調。市教育支援委員会への調査報告書や保護者意向確認書の記入方法を、様々な情報を提供した。

個別の指導計画と教育支援計画については、両計画の関係性や意図と目的作成の手順と取扱いなど、きめ細かな点の確認を示した。

このあと、特別支援教育コーディネーター地域ブロック会議を開催。受講者は、オンラインでブロックごとに分かれ、各校の特別支援教育の現状等について情報交換した。

【北海道通信 令和3年6月14日】

釧路市教委講座 校内研修の充実

研修内容の日常化へ

授業の話題増やし実践大切に

【釧路発】釧路市教委は8日、釧路教育研究センターで研修講座「校内研修の充実」を開いた。市内の全小・中学校・義務教育学校から研修担当教諭45人が参加。釧路教育研究センター各研究専門委員会からの研究発表や、市内小・中

学校での校内研修の実践発表を通じて、研修内容を日常化につなげる取組について研修を深めた。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、釧路教育研究センターからウェブ会議システムで配信し、参加者は自宅からリモートで

受講した。はじめに、釧路教育研究センターの5専門委員会が前年度の成果と課題を説明。つぎに、釧路小学校の寺島淳子教諭と大森毛中学校の溝淵修也教諭が自校での校内研修について実践発表を行った。

寺島教諭は、「研修内容の日常化」のために必要な6つのポイントを示した。①教職員としての姿勢や職員文化の継承と発展の研修の工夫②拝聴型研修ではないワークショップ型研修④校内研修の評価の導入⑤夕方の打ち合わせへの変更⑥初任者層を生かした授業交流について説明した。

研修への評価の細かな分析と、初任者層を生かした授業交流が授業参観の活発化につながり、チーム釧路小として、研修内容の日常化を支える基盤になっていると伝えた。



45人がリモートで参加した

溝淵教諭は、校内研修の全体計画を示し、「授業研究プラス授業以外の取組（学習内容の確かな定着を図る取組）」の重要性を強調した。授業改善として、板書記録の共有活用や単元指導計画の活用、釧路市授

業スタンダードの活用を提示。板書記録の共有では、全授業の板書を記録し共有することで、授業改善のポイントの明確化につながったことを説明した。研修内容の日常化については、①授業の話題を多くする②生徒のアプローチの充実③計画より実践をもっと大切に④3点が大切となることを強調した。このあと、参加者からの質問や実践交流が行われた。

城山小学校の兒手千里教諭は「研修評価の導入が参考になった。先生たちの声や考えなどを聞くことの大切さをあらためて感じた」と話し、今後の校内研修に生かしていく考えを示した。

【北海道通信 令和3年9月28日】

釧路市教委 1人1台端末研修講座

様々な実践事例学ぶ

市内小・中から25人参加

【釧路発】釧路市教委は15日、釧路教育研究センターでミニ研修講座「一人1台端末活用の充実」を開いた。市内小・中・義務教育学校から25人が参加。学習支援アプリ・ロイノートを活用した授業実践の説明と演習を通して、指導力の向上を図った。

講座は、釧路教育研究センター「指導方法開発研究専門委員会」が運営を担当した。

はじめに、浅田貴田研究所員(興津小学校)がG・I・G

△スクール構想のねらいについて確認。どのように授業が変化していくのかを、1人1台端末がない従来の環境と比較して解説した。

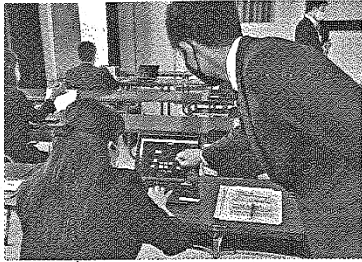
1人1台端末・高速通信環境を生かした学びの変容については、①「すぐにでも」の教科でも「誰でも」生かせる1人1台端末②教科の学びを深め、学びの本質に迫る③今日の学びをつなぎ、社会課題などの解決や一人ひとりの夢の実現に生かすの3ステップに分け、イメージ図を示しながら具体的に説明した。

引き続き、指導方法開発研究専門委員会の委員5人が、実践事例として「アンケート作成を生かした実践事例」「生徒間通信を活用した意

紹介。また、演習も行い、実践的指導力の向上を図った。

このうち、録音機能を使った音楽の実践事例を紹介した稲垣宏治専門委員(清明小学校)は、リコーダー演奏を自宅で録音したものを担任に送る機能について説明。教室とは違う自分1人の環境での演奏が、技能の上達を促す場合もあることを指摘したほか、ロイノートの活用次第で様々な可能性があることを示した。

市教委の柴田輝寛指導主事は「オンライン授業など、どのような環境下にも対応できるように準備を進めておくことが大切。子どもたちの学びを保障していきたい」と話していた。



ロイノートを
使って演習した

【北海道通信 令和3年10月19日】

釧路市教委 算数科の授業改善講座

ピクトグラム活用を

授業動画視聴と研究協議

【釧路】釧路市教委は9月下旬、研修講座「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善(算数科)」をオンラインで開催した。市内・管内の小・中・義務教育学校から教諭38人が参加。釧路教育研究センター学芸指導研究専門委員会による研究の説明や、算数科の授業動画視聴と研究協議などを通して、今、求められている算数科の授業の在り方について理解を深めた。

はじめに、専門委員会の早川将光副委員長(豊後中学校教諭)が、主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくりについて説明。具体的な姿を分かりやすく表現する方法として、ピクトグラムを組み入れた単元デザインシートなどについて解説した。

単元デザインシートには、教諭風支援機構「NET」が作成した「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」に関する3つのピクトグラムを活用したことを説明。専門委員会が具体的に示した表現したい子どもの姿と教師のかかりやすさを加味しながら、学習内容やつけさせた力のためのバランスを考慮、全体を見通したものにすることを伝えた。



釧路教育研究センターからリモートで助言する水上校長(左)と授業者の佐藤委員長

比較するピクトグラムで表現したい子どもの姿を共通点、相違点について考える「よい方向性を見いだそうとしている」と、教師のかかりやすさを考える「可視化」目的に応じた学習形態の工夫として、これを明示。単元デザインシート作成時にはこれらの子どもたちの姿や教師のかかりやすさをイメージしながらピクトグラムを入れ込むことで、単元全体の流れが把握でき、1単位時間の目標達成に向けての具体的な子どもたちの姿が想定しやすくなることとした。

このあと、専門委員会の佐藤義人委員長(昭和小学校教諭)による算数科授業の表し方を調べようの授業動画を視聴。単元デザインシートをもとに表現した授業では、単元が見通しやすく、どんな力を付けさせたいかが確認でき、各学級での指導は各クラスの指導のほらつきが起きにくいなどの成果を確認した。

一方、全教科・全単元において単元デザインシートを作成するには時間がかかり過ぎるといふ課題も共有した。研究協議では「ピクトグラムによって、何をすればよいのかが分かりやすい」「授業をみる視点が明確になった」などの意見が聞かれた。

助言者の水上俊司北中学校長は、ピクトグラムはピクトグラムとして分かりやすいとした上で、「主体的・対話的で深い学びに迫るためには、ピクトグラムを意図的に活用し、具体的な子どもの姿を想定することが大切。ピクトグラムと解題を関連付けるなど、工夫とバランスが求められる」とし、「今後、単元デザインシートが校内研修などを情報共有されることに期待を寄せた。

【北海道通信 令和3年5月24日】

釧路市教委 学習集団づくり講座

学びに向かう力育成へ

子が互いに認め合う関係を

【釧路発】釧路市教委は10月26日、釧路教育研究センターで研修講座「学びに向かう力を育む学習集団づくり」を開いた。本年度の特別重点講座で、釧路管内・市内の小・中・義務教育学校の教諭52人が受講。動画による授業視聴や研究協議等を通して、学びに向かう学習集団づくりに向けた教科指導のあり方について研鑽を積んだ。

はじめに、市教委の池理砂指導主事が「学びに向かう力を身につけた学習集団」について解説。豊かな温かい人間関係を築き、互いを認め合い、高め合う集団の中で学ぶ力や前向きな意識などが醸成されることを強調した。

また、帰属意識や規範意識の高い学級では、ルールと心地よさがバランスよく確立しており、学びに向かう学習集団の土台となっていると指摘。1人も置き去りにしない質の高い授業の手立てや工夫が求められるとした。

続いて、市立景雲中学校の新谷将司教諭の学級活動と数学の授業動画を視聴し

た。学級活動では、目標達成に向け、互いの目標や手立てなどの意見交換をする場面があり、互いを認め合う人間関係が培われている様子が見られた。

数学の授業では、理解できない箇所を意思表示するための工夫やロイロノートを活用した交流など、学習規律や学習環境などの面で学びに向かう学習集団づくりが進んでいる様子がみられた。

このあと、視聴した動画をもとにグループ協議を行い、自校での実践等を交えながら熱心に意見を交わした。

また、市教委の島山和彦指導主事は、互いを認め合い、高め合える学級集団の積み重ねが学校をつくるっていくことにつながると、「いろいろな子どもがいる中で、答えは一つではない。教師が意図をもって取り組むことが大切」と述べた。



グループで意見交換する参加者

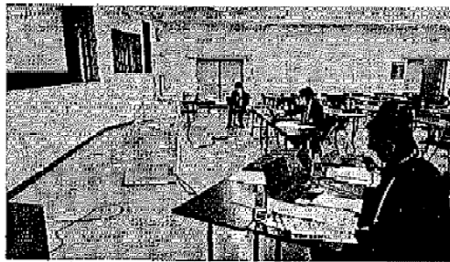
【釧路新聞 令和3年12月13日】

多様な性に理解深める

研修講座に小中教諭57人

釧路教育研究センター

釧路教育研究センター（所長・大山雄彰）が、体と心の性が一致しない性的少数者（LGBT）など多様な性をテーマとする研修講座をオンライン形式で開いた。釧路管内の小中学校教諭57人が参加。近年、性的少数者への社会的関心が高まっている現状を踏まえて、理解を深め、教育現場での対応を考えた。



多様な性をテーマにオンライン形式で開かれた研修講座

を支援するために何らかのアプローチが必要」とし、教員の研修会参加や、ゲストや図書を用いた授業を行うことを勧めた。

「例えば『女の子』などといった発言があった場合、聞かないことが差別の助長につながる」と指摘し、「『その人が好きな言葉が大切な指導になり、子供たちが多様性を理解することにつながる』と語った。最後にだれもが友人からカミングアウトされる可能性があると、『多様な性を受け入れられる社会を築くためにはすべての人が正しい知識を持つことが重要』と呼び掛けた。

この日は、道教育大副総長の戸田重也准教授が「ダイナミックな学び、生まれた時の性別と自分の感じる性別が異なる『トランスジェンダー』の当事者本人が『多様な性』に向き合うために」と題して講演した。はじめに「生まれ持った

この日は、道教育大副総長の戸田重也准教授が「ダイナミックな学び、生まれた時の性別と自分の感じる性別が異なる『トランスジェンダー』の当事者本人が『多様な性』に向き合うために」と題して講演した。はじめに「生まれ持った

この日は、道教育大副総長の戸田重也准教授が「ダイナミックな学び、生まれた時の性別と自分の感じる性別が異なる『トランスジェンダー』の当事者本人が『多様な性』に向き合うために」と題して講演した。はじめに「生まれ持った

【北海道新聞 令和3年12月13日】

多様な性の理解 子どもに伝えて 釧路で教員ら研修会



トランスジェンダー当事者と共に講話した道教育大副総長の戸田重也准教授

わたし

性差の偏見なくそう

体と心の性が一致しないトランスジェンダー（T.G）当事者を講師に招いた研修会が13日、教育現場向けにオンラインで開かれた。日常的な関わりの中で子どもたちに多様性を伝えることの大切さを伝えた。

釧路教育研究センターの研修の一環で開催され、釧路管内の養護教諭ら約60人が参加。T.G当事者、性的少数者の子供たちは「男らしく、女らしくなどと呼ぶと、自分からは分かってもらえないと受け止めてしまふ」と指摘。教員が「自分らしく」を尊重するよう

釧路市内で若い世代の性的少数者の交流会「ほふる」を主催する道教育大副総長の戸田重也准教授は「性の違和感を仲間と共有し自己肯定感を高めるために」と呼びかけた。

（伊藤美穂）

【北海道通信 令和3年12月15日】

釧路市大楽毛小が公開研究会開く

伝え合う学びを大切に

4年国語 プラタナスの木

【釧路発】釧路市立大楽毛小学校(池田倫知校長)は3日、同校で公開研究会を開いた。釧路管内の小・中学校、認定こども園、コミュニティ・スクール委員など50人が参加。国語科の授業を公開したほか、研究協議を通じて授業力の向上を図った。

同校は研究主題を「思いや考えを伝え合うことができる子どもの育成」を主体的・対話的で深い学びを取り入れた国語科学習を通して」と設定。令和2年度から釧路市教委の研究指定を受けており、その成果を発表する中で、釧路市教育研究センターの研修講座としても授業を公開した。津野佑大教諭が指導する。4年1組(児童数30人)の国語「プラタナスの木」を公開した。8時間扱いの6時間目で、本時の目標を「マーチンの行動の変化のわけについて、気持ちの変化や場面の変化の移り変わりと結びつけて想像したことを交し、自分たちの考えを伝えたり、深めたりすることができる」と設定した。

津野教諭は、前時にまとめたマーチンの気持ちの変化を場面ごとに示した「きっかけカード」4枚を提示。本時の課題「気持ちの変化のきっかけとなった場面を選んだわけを交流し、自分の考えを整理しよう」を確認した。また、同じ考えをもつ子どもでグループを編成。その場面にきっかけとなった理由など意見を交流させた。「おじさんの不思議な話を聞いたこと」を選んだグループからは、「この話を聞かなかったら変化が生まれないから」といった意見が出された。また、「プラタナスの切り株に乗ったこと」を選んだグループから「木の気持ちになれた。プラタナスの木がなくても公園は変わらない」といった考えが出されるなど、異なる意見にも耳を傾けながら、根拠となる叙述をもとに考えを深めていった。学校全体の交流では、どのきっかけも最後の場面の「マーチンの変化には必要不可欠な出来事や言葉となっている」とを共有した。公開授業後の閉会式で池田校長があいさつ。研究の経緯を説明し「人とのかけ

わりの中で、自分の考えをより深める姿がみえていく」とした上で、伝え合う学びを大切にしたいと、授業づくりの意図を求めた。市教委の山口隆教育委員は、同校の研究の成果を評価した上で「自分の考えを相手に伝えることは、主体的・対話的で深い学びに結びつくとし、読解力や語い力を伸ばす魅力ある授業構築に期待を寄せた。続いて、研修部長の廣島幸教諭が研究の概要を説明。児童の実態から、目標や学習意図を「思いや考え



4年生を指導する津野教諭

を伝え合い、学び喜びを感じるとも」に設定。獲得した学びを実感できる授業に迫るため、①導入の工夫(振り返りの工夫)②振り返りを中心に取り組んだ実践の成果と課題を発表した。このあと、6グループに分かれ、研究協議を行った。「互いの意見を認め合う雰囲気があった」という声や「異なる意見でのグループ編成の方が考えを深めることができたのでは」といった意見も出された。

助言した市教委の早山和彦指導主事は、学習のまとめである振り返りの場の重要性を訴え、「学びを明確にする振り返りや、今後の学習に生かせる振り返りなど、学習意欲へ結びつけることが大切」とし、考えを集団で広げている交流活動の充実を求めた。釧路教育局義務教育指導部の鈴木将大指導主事は、同校の研究主題が「思いや考えを伝え合うこと」を表現すること(アウトプット)であり、充実感が達成感、有実感につながる」とし、学びの実感を味わえるような振り返りの場を期待を寄せた。

【北海道通信 令和4年11月11日】

釧路市教委 総合的学習の研修講座

ICT 有効活用を

思考ツール 使い方など学ぶ

【釧路発】釧路市教委は、昨年12月中旬、釧路教育研究センターで研修講座「総合的な学習の時間の充実」を開いた。市内小・中学校・義務教育学校の教諭21人が受講。総合的な学習の時間におけるICT機器などを活用した授業の進め方などについて研修を深めた。

時間の指導計画作成や、ICT機器の機能を生かした授業実践の説明・演習を通して、単元デザインと授業の在り方を探ることを目的に中学校重点講座として開催した。

えや意見を比較・分類・関連づける活動において、どのように使われたかを確かめた。

つぎに、1人1台端末を活用した演習をペアになって実施。ロイロノートを使って、考えを比較するためのベン図や比較・分類しながら整理する座標軸などの思考ツールを体験した。

うち、座標軸を活用した演習では「〇〇駅前のいきいきプロジェクト」として駅前の活性化を図るという課題に対する様々なアイデアを比較・分類。「効果的だが実現が難しい」「実現可能だがあまり効果が期待できない」などを可視化・操作化することで、より効果的な案へと発展させた。

最後に渡部指導主事は、子どもが思考ツールの有用性を理解し、様々な場で使いこなすことが、学習の質を高めることにつながるとした上で「総合的な学習の時間だけではなく、他の教科でも活用することが大切」とし、教育活動全般でICT機器の有効な活用に期待を寄せた。



講座は、総合的な学習の時間におけるICT機器などを活用した授業の進め方などについて研修を深めた。

はじめに、市教委の渡部指導主事が、総合的な学習の時間における指導の要点を説明。指導計画の作成や実施に当たってのポイントなどを示したあと、子どもたちが物事を考えるための技法「思考ツール」の活用について解説した。

ベン図などの思考ツールについては、釧路市立昭和小学校タブレットで思考ツールを使いながら話し合う参加者